

デジタル田園健康特区特別委員会行政視察報告

2月1日から2日にかけて、委員8名、議長、市当局3名、事務局随員2名で、NPO法人気張る！ふるさと丹後町、大阪府大阪市を視察してまいりました。

■NPO法人気張る！ふるさと丹後町

【ライドシェア「ささえ合い交通」について】

ライドシェアを行っている丹後町は、京丹後市の中でも鉄道駅がなく、市中心部から最も遠い北端部に位置している。そのため、高齢者の交通手段確保が課題となっていた。そこで、市営バスの運行を受託していた同法人が、京都府からの提案もあり平成28年5月に「ささえ合い交通」の運行を開始した。

「ささえ合い交通」とは、同法人が主体となり、地元の住民ドライバーがマイカーを使って住民や観光客を運ぶライドシェア型公共交通である。

「ささえ合い交通」のメリットとしては、Uber（ウーバー）のアプリを使用しているため人的負担がゼロである点や、ドライバーもアプリで「運転する」と「運転しない」の切替えにより空き時間で対応できる点、日頃使っていないマイカーを使用するため地域の人材と遊休車両が有効活

用できる点、行政からの補助金なしで運行しているため行政コストの負担がゼロである点などが挙げられる。

今後の課題としては、現在、運賃はタクシー料金の半額であることから、安価に利用できるものの、利用者の多くが高齢者であることから、タクシー料金の半額であっても運賃が高いという声もあり、行政と連携した割引券等の緩和策が必要であるとのことであった。



NPO 法人気張る！ふるさと丹後町

ほかにも、丹後町外への往復運行の実現や代理配車サポーターの充実、市外や海外からの観光客の増加に伴う

ドライバー不足の解消などを挙げられていた。

ライドシェアを行うに当たって、運輸局とのすり合わせやタクシー会社との協議が必須であったが、京都府からの提案であったこともあり、比較的にスムーズに運行開始できたとのことであった。

■大阪府大阪市

【スーパースィティの取組について】

大阪府は、令和3年4月に大阪府と共同でスーパースィティ構想の提案をし、令和4年4月にスーパースィティ型国家戦略特区等の区域に指定された。

この構想は「住民一人一人の生活の質が向上し、都市が成長し続ける大阪」を目標に掲げ、ヘルスケアやモビリティ分野での事業に取り組んでいくとのことであった。具体的には「データ連携基盤整備事業」や「外国人創業活動促進事業」、「大阪・関西万博に関連する仮設建築物の建築」を区域計画の中で特定事業として認定しており、今後、さらに「空飛ぶクルマ」や「ドローン」、「医療・健康」に関する事業についても認定を検討していくとのことであった。

スーパースィティ構想には大きな取組が3つある。まず1つ目が「夢洲コ

ンストラクション」であり、この取組では夢洲の建設工事にデータ連携基盤を導入し、工事の円滑化を図っているとのことであった。2つ目が大阪・関西万博であり、開催に当たって「近未来の医療・健康サービス」、「自動運転車」、「空飛ぶクルマ」、「Maasによる移動の円滑化」を進めていくとのことであった。3つ目が「うめきた2期」であり、大阪駅周辺に新たにオフィスや商業施設、公園などを有する「グラングリーン大阪」を建設し、「みどり」と「イノベーション」の融合拠点を実現していくとのことであった。



空飛ぶクルマのVR体験

大阪府大阪市

■視察を終えて

今回視察したことを踏まえ、加賀市でのデジタル田園健康特区に関連するライドシェア事業や医療版情報銀行などの調査・研究を進めていきたい。